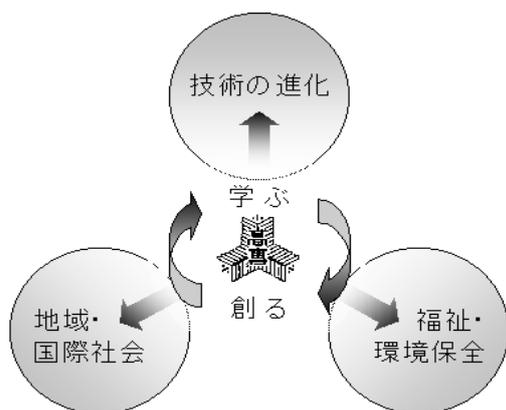


中学生の皆さんへ

(アドミッション・ポリシーを踏まえた中学生の皆さんへのメッセージ)

松江工業高等専門学校は、「**学んで創れるエンジニア**」の育成を教育目標としています。



「学ぶ」とは、成長のコア（核）であり、生涯持ち続けるべき姿勢です。健全な心身を保ち、自己を向上させようとするのが「学ぶ」ということです。そして、「創れる」とは、新たな形をつくり上げる力であり、その困難に立ち向かおうとする意欲を持つことです。また、「創る」ことによって、新たに「学ぶ」べきことも広がっていくのです。ただし、ただ「学ぶ」「創れる」だけでは、あるべき「エンジニア

」の姿だとはいえません。

エンジニアには、世界中のさまざまな社会で生活しているユーザ（利用者）の視点を共有できることが必要なのです。そのためには、さまざまな角度からものを見るための教養と、他者の意見を聞き入れ、自分の意見を表現できる対話力を持つことが求められます。また、実際の「ものづくり」は、多くの場合チームで行われます。そこでは、チーム内で意見を交わす対話力、チームワークでものを完成させるための団結力や協調性が必要になります。そして、実際に「創る」場面では、基礎的な学力をもとにした情報収集能力やその情報を分析する力、確実な基礎に裏打ちされた技術などを駆使し、対象によってさまざまに異なる問題を解決していこうとする意欲と、それを支える気力・体力を持つことが大切になるはずです。

また、単に自己の利益や所属する組織の利益にもとづいて行動するのではなく、時にはそれに反するとしても、地球上のあらゆる他者と同じ世界を生きる世界市民として行動できるための倫理観を欠いてはなりません。そのことは、われわれの後にこの世界を生きるであろう未来の他者への視線を持つことにもつながっています。自己の成長だけでなく、**技術の進化**や**地域・国際社会**、そして**福祉**や**環境保全**にも貢献できてはじめて、「エンジニア」だと私たちは考えます。

「学ぶ」姿勢、「創る」意欲、未来社会に貢献しようとする意志、以上の三点を兼ね備えた「エンジニア」を育成しようとする教育目標に共感し、本校で「エンジニア」を目指して勉強したいという強い意志を持ち、必要な資質を備えた人が数多く入学されることを期待しています。具体的には「**ものづくりに興味がある人**」、「**数学や理科に興味のある人**」、「**こつこつと物事に取り組める人**」、「**人の話がきちんと聞ける人**」、「**自分から行動を起こせる人**」、「**自分の意見がきちんと言える人**」を求めています。